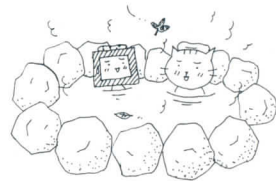




蘇った波多利朗!



波多利朗の Funky Goods

Psionシリーズのなかでも異彩を放つ
ハンディターミナル「Psion Workabout」

防塵、防水加工が施されたヘ
ビーな端末で日本語化を実現!

編集部から宅配便が届き、開けてみると、見慣れない端末と「面白いおもちゃがあります。遊んでみてください」と書かれたメモが入っていた。その「面白いおもちゃ」というのが今回ご紹介する「Psion Workabout」である。

もう少し早くご紹介する予定だったのだが、マシンルームの構築や新会社の業務、単行本の執筆など、近年稀にみる超多忙状態で延び延びになってしまい、12月号の清水隆夫氏に先を越されてしまった。ようやく一段落したので、あらためてその仕様や日本語化についてご紹介したい。

北安曇郡小谷温泉山田旅館の ホームページは一見の価値あり!

さて、本題の前に今日は温泉の話題から入ろう。もちろん、Psion Workabout にはなんの関係もない。

筆者は、毎年10月に小谷温泉山田旅館を訪問することになっている。ご存知の方も多いと思うが、小谷温泉は長野県北安曇郡小谷村にある。東京からは中央高速を利用し、豊科I.C.を降りて国道147号、148号線を糸魚川方面へ北上し、白馬村を過ぎたあたりで妙高小谷林道に入るルートをとる。標高は850mだ。

山田旅館は友人に教えてもらった鄙びた温泉宿だ。本館、新館、別館の3つの建物で構成されており、本館は明治時代の本造建築である。新館も大正時代に建てられたもので、これまた木造でとっても新しくはない。最近建てられた別館はさすがに近代的で、これら3つの建物が連結された旅館の内部構造はインテルのCPUのごとく複雑を極める。

もしも宿泊される場合は、本館か新館をお勧めする^(注1)。雰囲気が良い。隣の部屋とは襖一枚で仕切られており、欄間ごしに隣の部屋の明かりが漏れてくるのは、なかなか風情がある。

風呂は新館1階と別館にあり、新館では源泉を引いている。トイレは当然共同で、夜中にギシギシと軋む板張りの廊下を歩いてたどり着くのは、ちょっとした肝試しになる。

コンピュータになんの関係があるのかと言われてそうだが、この旅館にぞっこんとなってしまった筆者は、



画面1 秘湯小谷温泉山田旅館を紹介するホームページだ!

紹介用のホームページまで作成してしまったのだ。URLは下記のとおりだ。

<http://www2e.meshnet.or.jp/~catty/photo/yamada.htm> (画面1)

世界広しといえど、小谷温泉山田旅館をここまでビジュアルに紹介したページはここぐらいなものだろうと密かに自負している。これをご覧になって興味の湧いた方は、ぜひ一度足をお運びいただきたい。きっと後悔しないはずだ。

ただし、携帯端末を持参してパソコン通信を行うためには、音響カプラーが必要となる。場所が場所だけに、PHSは当然のこと、携帯電話も圏外である。ISDNのグレ電などという気の利いたものもないので、緑色の公衆電話にカプラーを接続しての通信となる。

小粋なPsionの製品群のなかでも 特異な縦長のデザイン

本題に入る。

Psion Workabout は、最近話題の Psion Series 5^(注2)

注1) 宿泊される場合は、本館か新館をお勧めする

宿泊予約をする際に、本館か新館かを指定できる。なお、宿泊料金は1泊2食付きで1万円だった(1997年10月現在)。

注2) Psion Series 5

Psion Computers 社の最新作。せり出してくるキーボード、おしゃれなアイコンなど、デザインに凝りまくった端末である。日本語処理を行うソフトウェアも続々と登場しつつある。なお、Psion Series 4という製品は存在せず、Series 3cの次は Series 5 となる。

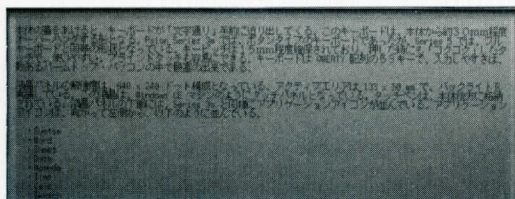
Psion Series 5用の日本語対応ソフトウェアとしては、1997/10/26現在、以下のものがある。

① 簡易日本語ビューワ「viewja」(<http://www01.upage.so-net.or.jp/fb3/re/y/>)
Shift-JISのテキストファイルを、12ドットフォントを使用して画面表示する(次頁の写真A)。

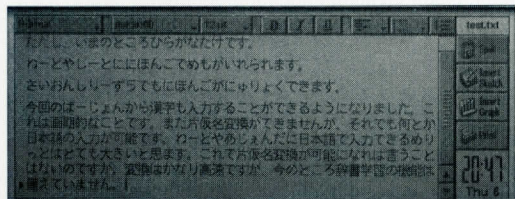
② ひらがな/漢字/カタカナ入力 FEP「KEdit α 1.5」(<http://antenna.infocity.co.jp/psion5-3.html>)

簡単なひらがな/漢字入力 FEP。エディタの機能はない。Agenda や Data のエントリーなど、複数のフォントが使える部分なら、どこでもひらがなや漢字などを入力することが可能だ(次頁の写真B)。





写真A 簡易日本語ビューワ「viewja」の画面



写真B ひらがな/漢字/カタカナ入力FEP「KEdit α 1.5」の画面



写真1 デザインに凝りまくったPDA「Psion Series 5」

注3)Psion Computers社
『Mobile Office』(APRIL
1995)P60～61「A Parade
of Portables Past」に、
"March 1990:Psion 1, a
powerful PDA, is deployed."
という記述がある。

注4)柴隠上人稀瑠冥関守
(Kerberos)氏
Psion Series 3/3a用日本
語エディタ「JEdit」を開発し
た世捨て人兼廃人。

注5)ワカバ
Psion Workaboutの輸入
総代理店。住所を以下に示
す。
〒103 東京都中央区日本
橋堀留町2-8-4 日本橋コア
ビル4F
TEL 03-3661-6668
FAX 03-3661-6713

注6)Workabout上で動作
させることが可能だ
Psion Series 3のLCD解
像度は240×80で、縦方向
がWorkaboutより20ドット
少ないため、Series 3用のソ
フトウェアをWorkabout上
で動作させると下20ドット
分が余ったかたちで表示さ
れる。

(写真1)を発売した英
国のPDAメーカー、
Psion Computers(注3)
の業務用端末である。
本体には防塵、防水加
工が施されており、屋
外でのヘビーな使用に
も耐え得るつくりと
なっている(写真2)。

Psion Computers社
は、筆者も以前から本
誌でご紹介してきた
Series 3/3aといった
小粋なPDAを発売し
てきたメーカーである
(写真3)。Series 3/3a
は日本ではあまりメ
ジャーな存在にはなら
なかったが、柴隠上人
稀瑠冥関守(Kerberos)
氏(注4)によって簡易日
本語エディタ「JEdit」
が開発され、日本語入
力が可能となった。

そして、その後に発
売されたSeries 5は、

ご承知のとおり一新されたOSと迫り出てくるキー
ボードを搭載し、デザインに凝りまくった製品として
発売当初から日本でも話題を呼んでいる。

こうしたPsionの製品のなかでも、Workaboutは異
彩を放っている。日本における輸入総代理店であるワ
カバ(注5)では、Workabout本体に「日本語のユーザーガ



写真3 Psion ComputersのPDAシリーズ

イド」と「日本語表示ライブラリFD」を添付したかた
ちで販売している(写真4)。「日本語のユーザーガイド」
単体の購入も可能である。

他のPsionシリーズとの相違点は 画面解像度とCPUの動作速度

Workaboutの本体は、これまでのPsionシリーズか
ら一変し、目にも鮮やかなイエローのボディが採用さ
れている。通常のPDAと異なる縦長のプロポーション
には、違和感を感じるかもしれない。

上部のLCDディスプレイの解像度は、Psion Series
3/3aと異なり、240×100ドットという特殊な仕様だ。
ただし、Psion Series 3との互換性は保たれており、
Series 3用に作成されたソフトウェアはそのまま
Workabout上で動作させることが可能だ(写真5)(注6)。

また、Workaboutにはバックライトが付いているた
め、暗いところでも画面が見やすい。

LCDディスプレイの左隣には、SSD/バッテリード
ロワ開放ボタンが付いている。このボタンを押すと、
Workaboutの上部がスライドして、SSDカードスロッ

トと単三乾電池を格納す
る部分が本体から引き出
されるという、かなり奇
抜な仕組みになってい
る。メカフェチにはこた
えられない仕様だろう(写
真6)。

SSDスロットは縦に2
基実装されており、上が
Aドライブで下がBドラ
イブとなっている(写真
7)。

バックアップ用のリチ
ウムボタン電池も、この
部分に格納されるよう
になっている。バックア
ップバッテリーには、CR

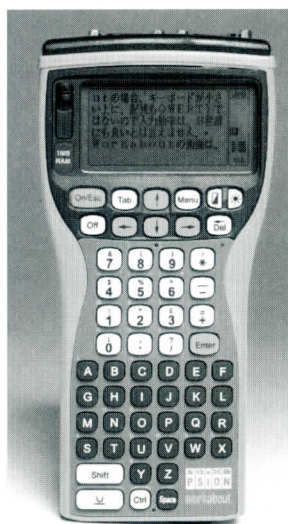


写真2 堅牢なつくりのPsion Workabout



写真4 Psion Workabout 日本語版パッケージの内容



写真5 240×100ドットの解像度を持つWorkaboutのLCD画面

1620(注7)という少し特殊な型番のものを使用する。

メインバッテリーはSSDスロットの下に格納する。通常の単三アルカリ乾電池のほかに、Psion Ni-Cdバッテリーパックも使用できる。

バッテリー格納スペースの下には、1.25Aのヒューズが実装されている。このヒューズは、メインバッテリーの逆挿しや短絡時に飛ぶようになっている。このあたりが、普通のPDAにはない機能である。

拡張I/Oポートとしては、RS232 ATおよびRS232 TTLインターフェイスが、前述したバッテリードロウの上部に搭載されている(写真8)。RS232 ATポートは通常のD-Sub 9ピン・オスコネクタで、シリアルケーブルを使用してデスクトップPCと接続することができる。RS232 TTLポートはD-Sub 9ピン・メスコネクタで、工業標準バーコードスキャナなどを接続できるようになっているそうだが、筆者はそこまでディープなマニアではないので、詳細はわからない。

本体下部には、LIF-PFS(Low Insertion Force - Power

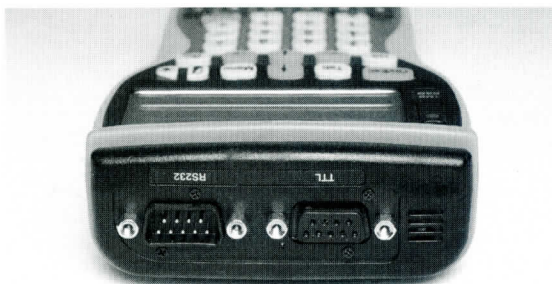


写真8 本体上部に実装されるI/Oポート(RS232 ATとRS232 TTL)

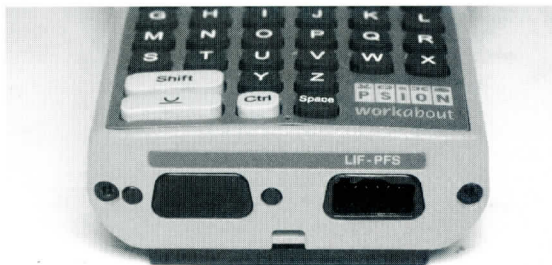


写真9 本体下部に位置するLIF-PFS(Low Insertion Force - Power & Fast Serial)コネクタ

& Fast Serial)コネクタが実装されている(写真9)。このコネクタは11ピンの特殊仕様のもので、専用のLIFコンバータを接続することにより、電源を供給すると同時にシリアルインターフェイスとしても使用することができる。

キーボードはボタンタイプのもので、配列はQWERTYではなくアルファベット順に並べたものとなっている(写真10)。QWERTYキーボードに慣れた人には、かなり使いにくい。英字キーの上にはテンキーが付いている。

注7)CR1620

CR1620は、秋葉原では「真光無線」で購入することが可能だ。JR秋葉原駅の電気街口のラジオ会館のある広場に出て右側に進む。アキハバラデパートの先のラジオストアの入り口の角にバッテリーがたくさん並んでいる店があるが、そこが「真光無線」である。秋葉原マップでは、ブロックA4を参照のこと。

写真6
SSD/バッテリードロウ開放
ボタンを押して、Workabout
内部を引き出したところ

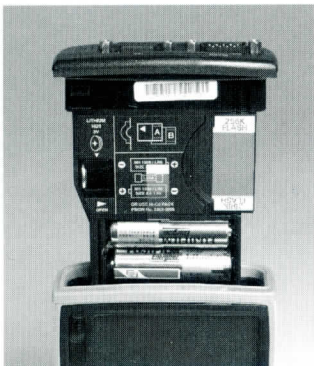


写真7
2基実装されている
SSDスロット

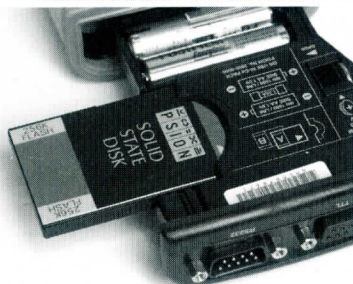
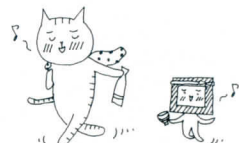


写真10
Psion Workabout
のキーボード



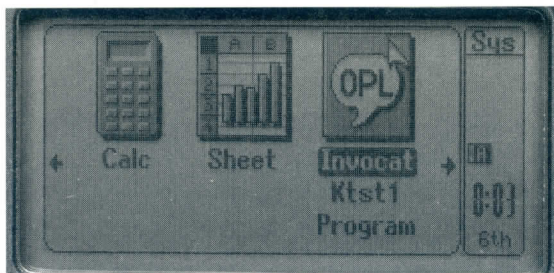


写真 11 Workabout にインストールされているソフトウェア

内蔵ソフトウェアとして、データベースソフトの「Data」、科学技術計算用の「Calc」、スプレッドシートの「Sheet」、通信ソフトウェアの「Comms」などがインストールされている(写真11)。

製品に添付されてくるFDには、Psion Workabout上で日本語表示を可能にする DYL ライブラリが格納されている。この日本語表示ライブラリは、Psion の SIBO(Single Board Organizer)アーキテクチャーを持ったコンピュータ上に日本語を表示するためのもので、これを使用することによって、OPL言語を用いて日本語のアプリケーションを作成することが可能になる。また、フォントファイルとして、Workabout用の以下のファイルがFDに収録されている。

フォントファイル名: RYOBIM14.FON

フォント名: リョービ本明朝 14 × 14

フォントメーカー: リョービイマジクス

Psion Workabout は外観こそ奇抜だが、内部仕様は他の Psion シリーズとよく似たものになっている。他の Psion シリーズと同様に EPOC-OS が採用されて、CPU には V30H を使用している。しかし、Workabout の場合、CPU のクロックスピードが 7.68MHz と、Series 3/3a の 2 倍に設定されている。

表 1 に、Psion Workabout、Series 3/3a の各仕様を示す。

◎表 1 Psion Workabout、Series 3/3a の仕様

	Psion Workabout	Psion Series 3	Psion Series 3a
CPU	V30H(7.68MHz)	V30H(3.84MHz)	V30H(3.84MHz)
メモリ容量	1MB RAM、1MB ROM	256K RAM、1MB ROM	1MB ROM、2MB RAM
ディスプレイ	240 × 100 ドット (バックライト付き)	240 × 80 ドット	480 × 160 ドット
アクティブエリア	62.4 × 30mm	97 × 39mm	126 × 45mm
キーボード	57 キー	QWERTY 58 キー	QWERTY 58 キー
I/O ポート	RS232 AT RS232 TTL LIF-PFS Connector	シリアルポート × 1 (Max 9600bps)	シリアルポート × 1 (Max 19200bps)
サウンド機能	ピエゾブザー	ピエゾブザー	8ビット/11kHz PCM
本体重量	325g(バッテリーを含む)	275g(バッテリーを含む)	275g(バッテリーを含む)
メインバッテリー	単三乾電池 2 本	単三乾電池 2 本	単三乾電池 2 本
サブバッテリー	CR1620	CR1620	CR1620
メモ리카ード	SSD ドライブ × 2	SSD ドライブ × 2	SSD ドライブ × 2
外形寸法	180 × 90 × 35mm	163 × 85 × 23mm	163 × 85 × 23mm
OS	EPOC	EPOC	EPOC

Workabout 用の日本語エディタ Edit シリーズで日本語化を行う

Psion 上で日本語入力が可能なエディタとしては、本誌でもたびたびご紹介した柴隠上人稀瑠冥閣守 (Kerberos) 氏の制作による「JEdit」が有名である。

そこで、今回も Workabout 用の日本語エディタを作成していただくべく、同氏に本機を貸し出すことにした。Psion マニアの同氏にとって本機は格好のオモチャとなったようで、1 週間ほどで 4 種類もの日本語エディタを作成してしまった(注8)。

● JEditw

以下に、日本語エディタ「JEditw」(写真12)のインストール法を示す。

①必要なファイルの準備

日本語表示に jmemo 用 14 ドットフォントをコンバートして利用するバージョンで、全角で 5 行 × 14 文字の日本語表示が可能である。アーカイブファイル(jeditw.lzh)を解凍すると、下記のファイルが生成される。

・ JEDITW.APP(Psion Workabout 用アプリケーション本体)

・ PCONV14.EXE(14 ドットフォントコンバータ)

・ JEDITW.MAN(マニュアル)

なお、本プログラムを使用するには、以上のファイルのほかに次に示すファイルが必要となる。

・ 14 ドットフォントファイル(FONT.14): HP95LX 用日本語エディタ「jmemo」の 14 ドットフォント
所在: NIFTY SERVE → FHPPC LIB15

17 番 FONT14.LZH JMOMO 用 14Dot Font

・ かな漢字変換用辞書ファイル(JISYO.DIC、JISYO.IDX): HP95LX 用日本語エディタ「jmemo」の辞書ファイル

注 8) 4 種類もの日本語エディタを作成してしまったもちろん、これらすべてをインストールする必要はなく、気に入ったものを使用すればよい。筆者の個人的な感想では、「JEditw」が最もバランス良く仕上がっていると思う。



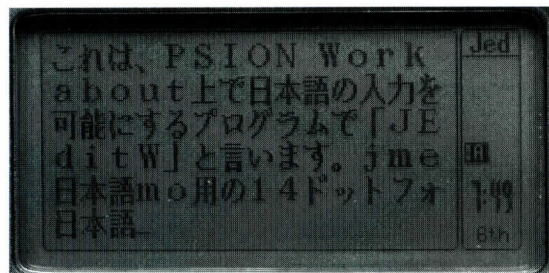


写真12 FONT.14を使用した日本語エディタ「JEditw」の画面表示

所在：NIFTY SERVE → FHPPC LIB15

18番 JISYO_L.LZH JMEMO用辞書(大)

・フォントボールド化ツール(BOLD14.EXE)：オプション。上記のFONT.14をボールド化して読みやすくするためのツール

所在：NIFTY SERVE → FHPPC LIB15

331番 BOLD102.LZH FONT.14をボールド化

②インストール方法

まず、以下のファイルが揃っているかどうかを確認する。

- ・JEDITW.APP(アプリケーション本体)
- ・PCONV14.EXE(フォントコンバータ)
- ・FONT.14(jmemo用14ドットフォント)
- ・JISYO.DIC(jmemo用ラージ辞書)
- ・JISYO.IDX(ラージ辞書インデックス)
- ・BOLD14.EXE(FONT.14ボールド化ツール)

次に、フォントファイルをコンバートする。

まず、FONT.14ボールド化ツールを使用して、FONT.14をボールド化しておく(注9)。この処理は必須ではないが、ボールド化することによりフォントが見やすくなる。

そして、ボールド化したFONT.14をJEdit用のフォントファイルにコンバートする。この変換は、Psionのビットマップデータ描画命令の仕様に合わせてフォントデータのミラー反転を行うもので、フォント形状自体に変更を加えるものではない。

コンバートの方法は、IBM互換機上の適当なディレクトリにPCONV14.EXEとFONT.14を置き、PCONV14.EXEを実行する。この処理により、Psion用のJEditフォントである「PJFONT.14」が得られる。

次に、以下のファイルをWorkaboutの任意のドライブに転送する。

- ・JEDITW.APP → ¥APP ディレクトリ
- ・PJFONT.14 → ¥FON ディレクトリ
- ・JISYO.DIC → ¥DIC ディレクトリ
- ・JISYO.IDX → ¥DIC ディレクトリ

また、以下のディレクトリを任意のドライブに作成しておく。

- ・¥TXT(文書ファイル格納デフォルトディレクトリ)

ここで注意すべきことは、フォントファイルPJFONT.14を内蔵ドライブ(M:)に格納することを極力避けることだ。内蔵ドライブはアクセススピードが遅いため、文字表示の速度が大幅に低下してしまうからだ。

また、文書ファイル格納用ディレクトリ(¥TXT)はできるだけ内蔵ドライブ、またはRAM SSDドライブに作成する。文書ファイルは頻繁に更新されるため、write onceタイプのFLASH SSDに格納すると、ファイルを更新するたびにディスクスペースを浪費してしまうからである。

そして、アプリケーションをインストールする。通常のインストール方法(Psion+I)でJEditwをシステムスクリーンに登録する。

③制限事項

Psionは、EPOC-OSと呼ばれる独自のOSによってマルチタスクを実現している。このOSの仕様により、各プロセス実行時のメモリサイズは、コードとデータの合計で64KB以下に制限されている。

またPsionは、外部記憶媒体としてSSDと呼ばれる独自仕様のメモリカードを採用している。このような事情から、JEditwには以下の制限事項がある。

- ・文書ファイルの最大サイズは16KB……読み込みファイルのサイズが16KBを超える場合には、最初の16KB分までしか読み込まない(編集中の文書ファイルのサイズは、Psion+Iで表示される)。
- ・辞書バッファサイズは26KB……辞書に新しい単語を登録する場合には、最初の1文字が同じ単語データの総計が26KBを超えないように注意する必要がある。
- ・辞書の自動学習は辞書格納ドライブがRAM SSDの場合のみ有効……PsionのFlash SSDはwrite onceタイプのため、辞書ファイルの書き換えを行うとフリーエリアが減少してしまう。このため辞書学習機能は、辞書がインストールされているドライブがRAM SSDの場合のみ有効となる(辞書格納ドライブのメディアタイプは、Psion+Mで表示される)。
- ・半角カナには対応していない。

●JEditw

以下に、日本語エディタ「JEditw」(写真13)のインストール法を示す。

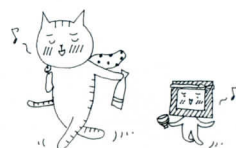
①必要なファイルの準備

日本語表示に8ドット恵梨沙フォント(Psion版)を利用するバージョンで、全角で9行×22文字の日本語表示が可能である。アーカイブファイル(jeditw.lzh)を解凍すると、下記のようなファイルが生成される。

- ・JEDITWE.APP(Psion Workabout用アプリケーション本体)
- ・JEDITWE.MAN(マニュアル)

なお、本プログラムを使用するためには、以上の

注9)FONT.14をボールド化しておく
ボールド化の作業はIBM互換機上で行う。



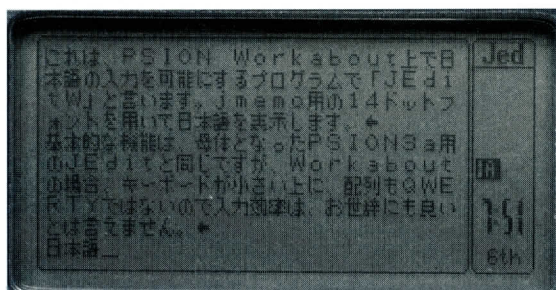


写真 13 恵梨沙フォント(Psion 版)を使用した日本語エディタ「Jeditw」の画面表示

ファイルのほかに次に示したファイルが必要となる。

- ・ 8ドットフォントファイル(ELISAM10.FNT):恵梨沙フォント Ver.1.00 Psion 版

所在: NIFTY SERVE → FSNOTE LIB2

245番 ELISAM10.LZH Psion Series 3用 8ドット恵梨沙フォント

- ・ かな漢字変換用辞書ファイル(JISYO.DIC、JISYO.IDX): HP95LX用日本語エディタ「jmemo」の辞書ファイル

所在: NIFTY SERVE → FHPPC LIB15

18番 JISYO_LLZH JMEMO 用辞書(大)

②インストール方法

以下のファイルが揃っているかどうかを確認する。

- ・ JEDITWE.APP(アプリケーション本体)
- ・ ELISAM10.FNT(恵梨沙フォント Psion 版)
- ・ JISYO.DIC(jmemo 用ラージ辞書)
- ・ JISYO.IDX(ラージ辞書インデックス)

次に、以下のファイルをWorkaboutの任意のドライブに転送する。

- ・ JEDITWE.APP → ¥APP ディレクトリ
- ・ ELISAM10.FNT → ¥FON ディレクトリ
- ・ JISYO.DIC → ¥DIC ディレクトリ
- ・ JISYO.IDX → ¥DIC ディレクトリ

また、以下のディレクトリを任意のドライブに作成する。

- ・ ¥TXT(文書ファイル格納デフォルトディレクトリ)

注意すべき点は、フォントファイルELISAM10.FNTを内蔵ドライブ(M:)に格納することは極力避けることである。また、文書ファイル格納用ディレクトリ(¥TXT)は、できるだけ内蔵ドライブ、またはRAM SSDドライブに作成しておく。

アプリケーションは、通常のインストール方法(Psion+)でJeditwをシステムスクリーンに登録する。

③制限事項

Jeditwの制限事項の項目で示した内容と同様である。

● Jeditwr

以下に、日本語エディタ「Jeditwr」(写真14)のインストール法を示す。

①必要なファイルの準備

日本語版 Workabout に付属の 14 ドットフォント「RYOBIM14.FON」を日本語表示に利用するバージョンで、全角で 5 行×14 文字の日本語表示が可能となっている。本ソフトウェアを使用する際には、ワカバの Workabout 日本語版に付属しているリョービ本明朝 14×14(RYOBIM14.FON)が必要である。

アーカイブファイル(jeditwr.lzh)を解凍すると、以下のファイルが生成される。

- ・ JEDITWR.APP(Psion Workabout 用アプリケーション本体)

- ・ JEDITWR.MAN(マニュアル)

なお、本プログラムを使用するには、以上のファイルのほかに次に示すファイルが必要となる。

- ・ Workabout 日本語版付属の 14 ドットフォントファイル RYOBIM14.FON 203124 04-18-9 17:02

- ・ かな漢字変換用辞書ファイル(JISYO.DIC、JISYO.IDX) HP95LX用日本語エディタ「jmemo」の辞書ファイル

所在: NIFTY SERVE → FHPPC LIB15

18番 JISYO_LLZH JMEMO 用辞書(大)

②インストール方法

以下のファイルが揃っているかどうかを確認する。

- ・ JEDITWR.APP(アプリケーション本体)
- ・ RYOBIM14.FON(Psion Workabout 日本語版に付属する)
- ・ JISYO.DIC(jmemo 用ラージ辞書)
- ・ JISYO.IDX(ラージ辞書インデックス)

次に、以下のファイルをWorkaboutの任意のドライブに転送する。

- ・ JEDITWR.APP → ¥APP ディレクトリ
- ・ RYOBIM14.FON → ¥FONT ディレクトリ(要注意)
- ・ JISYO.DIC → ¥DIC ディレクトリ
- ・ JISYO.IDX → ¥DIC ディレクトリ

また、以下のディレクトリを任意のドライブに作成する。

- ・ ¥TXT(文書ファイル格納デフォルトディレクトリ)

注意すべき点は、フォントファイル RYOBIM14.FON を内蔵ドライブ(M:)に格納することは極力避けることである。また、文書ファイル格納用ディレクトリ(¥TXT)は、できるだけ内蔵ドライブ、またはRAM SSDドライブに作成しておく。

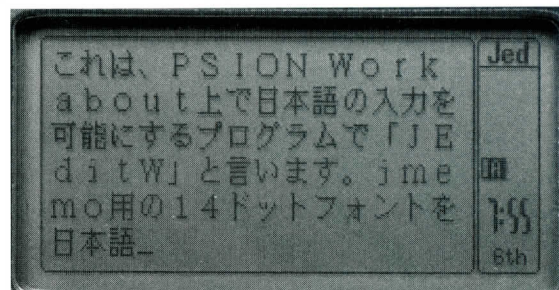


写真 14 リョービ本明朝フォントを使用した日本語エディタ「Jeditwr」の画面表示





また、今回使用するリョービ本明朝 14×14 (RYOBIM14.FON) フォントファイルは、¥FONTディレクトリに格納しなければならないので注意が必要だ。

アプリケーションは、通常のインストール方法 (PSION+) で JEditw をシステムスクリーンに登録する。

③ 制限事項

JEditw の制限事項の項目で示した内容と同様である。

● JEditw

以下に、日本語エディタ「JEditwd」(写真15)のインストール法を示す。

① 必要なファイルの準備

日本語表示に日本語版 Workabout に付属の 14 ドットフォント「RYOBIM14.FON」、および日本語表示 DYL「KANJIOUT.DYL」を利用するバージョンである。全角で 5 行×14 文字の日本語表示が可能だ。このバージョンでは、日本語表示 DYL を利用してメニュー、および一部のダイアログボックスの表示を日本語化している。

なお、編集可能な文書サイズは 12KB までで、辞書ファイルは jmemo 用ミディアムサイズ辞書を利用する(他の JEdit シリーズとは異なり、ラージ辞書は使えないので注意が必要だ)。

アーカイブファイル(jeditwd.lzh)を解凍すると、以下のファイルが生成される。

- ・ JEDITWD.APP (Psion Workabout 用アプリケーション本体)
- ・ JEDITWD.MAN (マニュアル)

なお、本プログラムを使用するには、以上のファイルのほかに次に示すファイルが必要となるので、別途用意すること。

- ・ Workabout 日本語版付属の 14 ドットフォントファイル RYOBIM14.FON 203124 04-18-96 17:02
- ・ Workabout 日本語版付属の日本語表示 DYL KANJIOUT.DYL 9680 05-01-96 11:05
- ・ かな漢字変換用辞書ファイル (JISYO.DIC、JISYO.IDX) HP95LX 用日本語エディタ「jmemo」の辞書ファイル所在：NIFTY SERVE → FHPPC LIB15

19 番 JISYO_M.LZH JMEMO 用辞書(中)

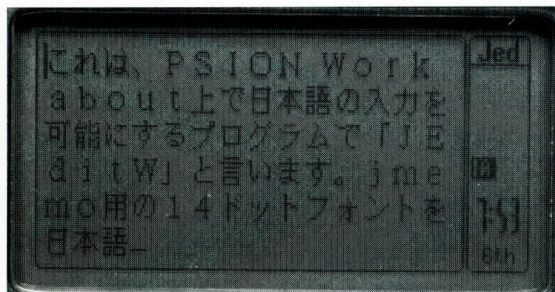


写真15 リョービ本明朝フォントと日本語表示DYLを使用した日本語エディタ「JEditwd」の画面表示

② インストール方法

以下のファイルが揃っているかどうかを確認する。

- ・ JEDITWD.APP (アプリケーション本体)
- ・ RYOBIM14.FON (Psion Workabout 日本語版に付属)
- ・ KANJIOUT.DYL (Psion Workabout 日本語版に付属)
- ・ JISYO.DIC (jmemo 用ミディアム辞書)
- ・ JISYO.IDX (ミディアム辞書インデックス)

そして、以下のファイルを Workabout の任意のドライブに転送する。

- ・ JEDITWD.APP → ¥APP ディレクトリ
- ・ RYOBIM14.FON → ¥FONT ディレクトリ (要注意)
- ・ KANJIOUT.DYL → ¥DYL ディレクトリ
- ・ JISYO.DIC → ¥DIC ディレクトリ
- ・ JISYO.IDX → ¥DIC ディレクトリ

また、以下のディレクトリを任意のドライブに作成する。

- ・ ¥TXT (文書ファイル格納デフォルトディレクトリ)

注意すべき点は、フォントファイル RYOBIM14.FON を内蔵ドライブ (M:) に格納することは極力避けることである。また、文書ファイル格納用ディレクトリ (¥TXT) は、できるだけ内蔵ドライブ、または RAM SSD ドライブに作成しておく。

また、今回使用するリョービ本明朝 14×14 (RYOBIM14.FON) フォントファイルは、¥FONT ディレクトリに格納しなければならないので注意が必要だ。

アプリケーションは、通常のインストール方法 (PSION+) で JEditw をシステムスクリーンに登録する。

③ 制限事項

基本的には JEditw の制限事項の項目で示した内容と同様だが、文書ファイルの最大サイズは 12KB、辞書バッファサイズは 12KB と、JEditw の場合よりも容量が小さくなっている点が異なる。

● Workabout 用 JEdit シリーズの入手先

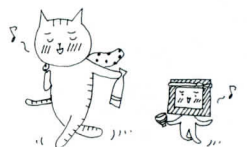
ご紹介した「JEditw」「JEditwe」「JEditwr」「JEditwd」の 4 種類のプログラムは、jedwk218.lzh というひとつのアーカイブファイルにまとめて、次の URL にアップロードする予定だ。

http://www2e.meshnet.or.jp/~catty/nazopa/psion_s.htm

Series 3 用のソフトが動作可能だが下部 20 ドットが余った状態で表示

Workabout では、LCD 画面の解像度が Series 3/3a のどちらとも異なっているため、Workabout 専用で作成されたソフトしか動作しないように思われるかもしれないが、Series 3 用のソフトウェアならばそのまま動作させることが可能である。

この場合、Workabout の画面解像度が 240×100 ドット



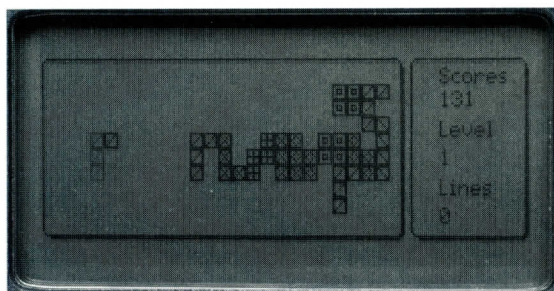


写真16 Workabout上で動作するゲーム「Tetris Version 1.0f」

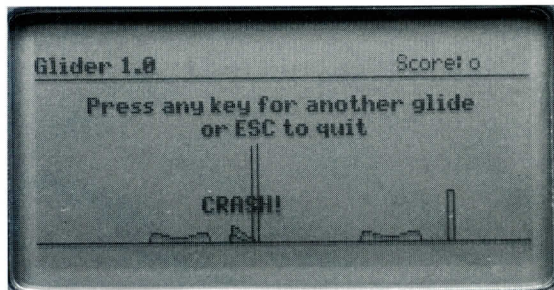


写真17 Workabout上で動作するゲーム「Glider Version 1.0」

トと、Series3の240×80ドットよりも縦方向で20ドットほど長いので、下部20ドットが余った状態での表示となる。

試しにSeries3用の以下のゲームソフトをインストールしてみたが、いずれも問題なく動作した。

- ・ Tetris for Psion Series 3 Version 1.0f(写真16)
- ・ Glider Version 1.0(写真17)
- ・ PsionMan Version 1.3
- ・ Bom Version 1.07
- ・ Jumpy Version 1.0

フィールドにおける情報収集端末として威力を発揮するマシン

Psion Workaboutは、キーボードがQWERTY配列ではなく、LCDディスプレイも小さいため、JEditによる日本語入力はお世辞にもしやすいとは言えない。14ドットフォントを使用すれば文字もかなり見やすくなるが、ひとつの画面に表示できる情報が5行×14文字と少なくなってしまう。恵梨沙フォントを使用すると9行×22文字が表示可能となるが、今度は文字が小さくなってしまい、老眼の方などには若干きついただろう。

やはりWorkaboutは、フィールドでの情報収集端末として威力を発揮するマシンである。このようなハンディターミナルとして設計されたマシンでも日本語を扱うことができるというのは、なかなか面白いのではないだろうか。

それにしても、特殊なマシンにもかわからず、驚嘆すべき情熱で数種類の日本語エディタを作成してくださった柴隠上人稀瑠冥閻守(Kerberos)氏は、かなりの変人と言わざるを得ない。その労に対して、心から謝意を表したいと思う。



●Psion Series 5

日本でもPsion Series 5が注目されつつあるが、早くもPsion Series 5 コンパチ機と思われる製品が発表された。

これは「Geofox-One」といい、OSにはPsion Software EPOC32 Geofox Version 1.01を搭載している(注1)。製品に関する詳細な情報は以下のURLから入手できるので、参考にしていただきたい。

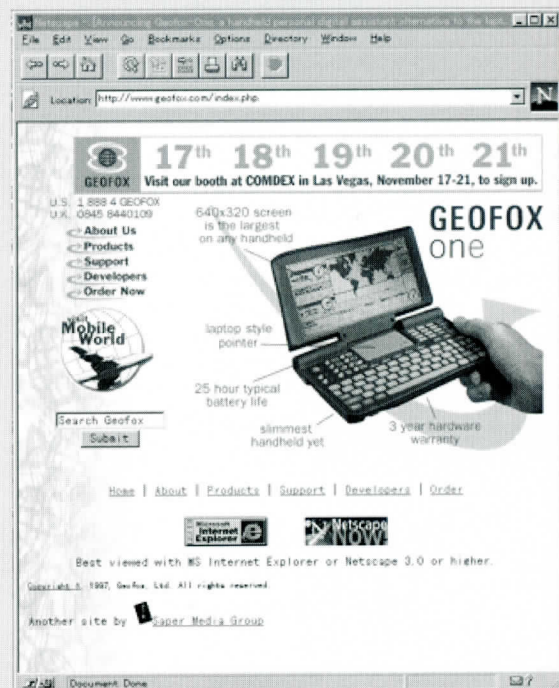
<http://www.geofox.com/>

さて、この謎のPsion コンパチ機「Geofox-One」だが、Psion Series 5と比較して大きく異なるところは、PCMCIA Type II カードスロットを装備し、PCカードモデムを実装できる点だろう。また、マシン本体にはWebブラウザも用意されており、Psion Series 5よりもネットワーク機能が強化されている。

Webに掲載されている写真を見ると、キーボードはSeries 5と異なりボタンタイプを採用している。この点ではSeries 5のほうが使いやすいそうだ。ポインティングデバイスとしてはグライドポイントを使用している。

内蔵メモリの容量は、4MBと16MBの2つのバージョンから選択でき、どちらもEDOを使用している。

LCDディスプレイは640×320ドットで、Series 5よ



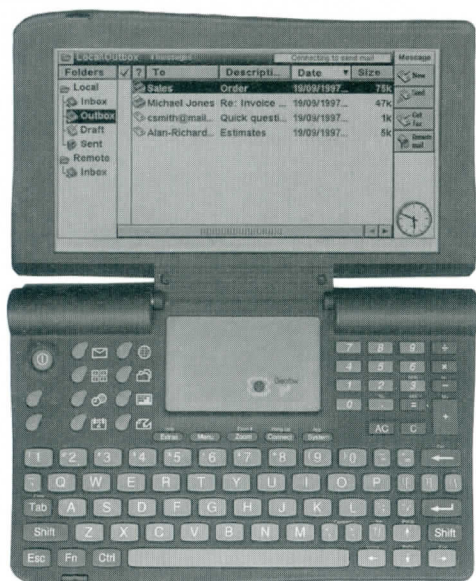
▲ Geofox 社のホームページ



のコンパチ機(?)「Geofox-One」

りも若干解像度が高い。このLCDは16階調グレースケール表示が可能で、バックライトが実装されている。

CPUは、Series 5と同じARM CL-PS7110 RISC プロセッサ(18.432MHz)を使用している。



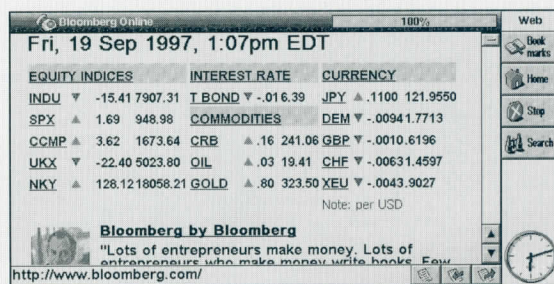
▲ GeoFox-One の全景。デザインも Series 5 と一味違った魅力がある

◎表2 Geofox-One と Psion Series 5 の仕様比較

	Geofox-One	Psion Series 5
メーカー	GEOFOX	Psion Computers
CPU	ARM CL-PS7110 RISC Chip(18.432MHz)	ARM CL-7110 RISC Chip(18.432MHz)
メモリ容量	ROM 8MB、RAM 4MB/16MB	ROM 6MB、RAM 4MB/8MB
ディスプレイ	640×320 ドット LCD バックライト付き	640×240 ドット LCD バックライト、タッチパネル付き
キーボード	QWERTY 94 キー	QWERTY 53 キー
ポインティングデバイス	グライドポイント	タッチペン
I/O ポート	RS-232C(Max 115.2kbps) IrDA(Max 115.2kbps)	RS-232C(Max 115.2kbps) IrDA(Max 115.2kbps)
本体重量	390g(バッテリーを含む)	354g(バッテリーを含む)
メインバッテリー	単三乾電池 2 本 (持続時間: 約 25 時間)	単三乾電池 2 本 (持続時間: 約 35 時間)
サブバッテリー	CR2032	CR2032
PCMCIA	PCMCIA Type II × 1	Compact Flash Memory Card × 1
外形寸法	187×120×20mm	170×90×23mm
OS	Psion Software EPOC32 Geofox Version 1.01	Psion Software EPOC32
内蔵ソフトウェア	Internet POP-3 email Web browser、Fax、Word Sheet、Agenda Database、Calculator World Time/Alarm Voice record/playback	System、Word、Sheet Data、Agenda、Time Calc、Sketch、Extras
AC アダプタ	別売り(DC 9 V)	別売り(DC 6 V)

重量は Psion Series 5 よりも 36g 重い 390g である。実物を見たわけではないので、Series 5 とどの程度の互換性を持つのかは不明だが、かなり面白いバームトップだといえるだろう。Webに掲載されている情報では、本機はCOMDEXにも出品されるということだ。なお、インターナショナルオーダーは電話のみの対応で(注2)、FAXや郵便、電子メール、Geofox-One Web サイトからのオーダーは一切受け付けていないということだから、直接電話して発注するしか方法はなさそうだ。

表2に、Geofox-One と Psion Series 5 の仕様を掲載しておく。



▲ Web browser も内蔵されている。画面を見る限りは Series 5 と同じものようだ

注1) Psion Software EPOC32 Geofox Version 1.01 を搭載している

実際に製品を購入したわけではないので、どの程度の互換性があるのかは不明である。ただ、Webに掲載された情報では Geofox Version と書かれているため、あるいは本機用にカスタマイズされた OS なのかもしれない。

注2)インターナショナルオーダーは電話のみの対応で

Geofox のホームページでオーダーの項目を見ると、以下の記述が掲載されている。

「International orders can only be placed by customers that call via voice telephone to +1 787 371371: no international orders will be accepted by facsimile, postal mail, e-mail or the Geofox web site. Please contact Geofox's Sales Department for rates, restrictions and other arrangements for international orders.」